

電力コスト削減システム

照明やエアコンの稼働を調整

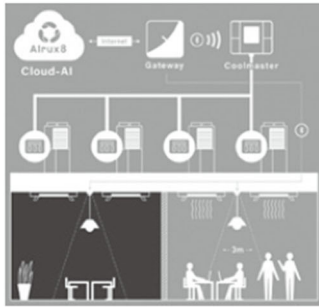
【加賀電子】



電子事業部営業一部
ライティング課長
青柳剛氏

加賀電子（東京都千代田区）は1月、電力コスト削減システムの Airux8（エアアックスエイト）の日本における代理店として販売を始めた。商業施設やホテル、オフィスビル等への提案を進める。

2020年にシンガポールをはじめとする東南アジア市場で先行販売し、導入されている。Node（ノード）と呼ばれる温度・人感



▲温度・人感センサーで空間のデータを取得する

センサーを組み込んだ装置を通じて、混雑状況や不在状況等のデータを取得し、AIで解析する。施設内のIoT製品やシステムの開発等を手掛けるトリス・オン・プロダクト（横浜市西区）が開発したもので、施設全体のエネルギー消費をAIで自動制御する。また、施設内空調設備の設定温度も自動調整できる。外気温と施設内の温度、エアコンの設定温度等をAIで把握・予測し、設定温度を緩やかに上昇・下降させ、少人数や無人の空間ではON・OFFも自動で行う等して消費電力を抑える。従来のエアコンは温度設定を手動操作またはスケジュール稼働するため、外気温や内部温度と設定温度に大きな差があると急速運転することになり、電力使用量が多くなる原因にもなっていた。Airux8はAIを通じて空間の実状況を把握し、緩やかに稼働させることで電力消費量を抑える。先行して導入された施設ではエネルギーコストを41%削減した実績もある。

Nodeは天井に取り付けることを想定。天井高3m以下の空間での運用を推奨する。電子事業部営業一部ライティング課長の青柳剛氏は「今、日本では電気料金をはじめエネルギー価格の高騰が続いている。Airux8は先行して導入されているシンガポールの施設で30〜40%の電力使用量を削減した実績があり、日本の企業施設にもぜひ提案したい。世界的にSDGs推進の潮流が進む中、Airux8の導入はカーボンニュートラルの実現、社会課題の解決にも繋がる」と語る。